

## 研究課題：難治性非単一症候性夜尿症に対する膀胱尿道内視鏡検査の適応

### 1. 研究の目的

昼間の尿失禁(DI)を伴う夜尿症(NE)を非単一症候性夜尿症(NMNE)と呼びますが、内科的治療(定時排尿、二段排尿、抗コリン薬、便秘治療など)が効かない難治性のNMNEの患者様が存在します。このような難治性NMNEのなかには、後部尿道弁(PUV)と呼ばれる、男子で尿道が生まれつき狭い病気が隠れていることがあります。しかし、このような尿失禁や夜尿を契機に見つかるPUVは軽症例が多く、排尿時膀胱尿道造影検査(VCUG)では診断が困難な場合があります。膀胱尿道内視鏡検査はPUVの確定診断のために施行されますが、難治性NMNEに対する検査の適応については、決められた基準がありません。今回、難治性NMNEに対する膀胱尿道内視鏡検査の適応について検討しました。

### 2. 研究の方法

2014年1月から2022年12月までに6か月以上の抗コリン薬などの内科的治療でNEとDIが改善しない難治性NMNEのため、夜尿外来から泌尿器科へ紹介し、VCUGが施行された男児を対象としました。VCUG後に同意が得られた患者様に対し、膀胱尿道内視鏡検査を行い、PUVがあれば尿道切開を施行しました。術後3か月以上の観察期間が得られた症例のNE・DIの頻度を後方視的に検討しました。診療録から、患者の性別、年齢・身長・体重(実体重、身長からの標準体重)、家族歴、既往歴、排尿記録(夜尿頻度、尿失禁頻度、早朝最大排尿量、夜間尿量、日中最大排尿量、排便記録、排尿回数)、腎臓超音波検査、夜尿治療内容(デスモプレシン、アラーム、抗コリン薬、ピベグロン)、泌尿器科精査結果(VCUG、ウロダイナミクス、脊椎MRI、膀胱尿道内視鏡)、泌尿器科手術記録(尿道弁切開術)等の情報を調べまとめます。

### 3. 研究期間

倫理委員会で承認された後～2024年3月31日

### 4. 研究に用いる資料・情報の種類

血液検査と尿検査、腎超音波検査、治療経過などをカルテの記載から調べます。これらは個人情報的一切含まない形で、論文内に掲載されることがあります。

## 5. 外部への資料・情報の提供、研究成果の公表

この研究で得られた結果は、医学雑誌などに公表されることがありますが、患者様の名前など個人情報は一切分からないようにしますので、プライバシーは守られます。また、この研究で得られたデータが本研究の目的以外に使用されることはありません。

## 6. 研究組織

研究機関：地方独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立小児医療センター

研究責任者：腎臓科 科長兼副部長 藤永 周一郎

研究分担者：腎臓科 医長 櫻谷 浩志

腎臓科 医長 遠藤 翔太

腎臓科 医員 青山 周平

腎臓科 医員 横田 俊介

## 7. お問い合わせ先・研究への参加を希望しない場合の連絡先

研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、資料・情報が当該研究に用いられることについて患者様もしくは患者様の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、2023年12月31日までに下記の連絡先へお申出ください。その場合でも患者様に不利益が生じることはありません。

地方独立行政法人埼玉県立病院機構

埼玉県立小児医療センター

医事担当（代表 048-601-2200）